

氏名(本籍)	なが さく 永 作	みのる 稔 (茨城県)	
学位の種類	博士(心理学)		
学位記番号	博甲第4040号		
学位授与年月日	平成18年3月24日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	高等学校への進学動機と適応的な学校移行の予測に関する研究		
主査	筑波大学教授	教育学博士	新井 邦二郎
副査	筑波大学教授	博士(心理学)	庄司 一子
副査	筑波大学助教授	博士(心理学)	濱口 佳和
副査	筑波大学助教授	教育学博士	櫻井 茂男

論文の内容の要旨

(1) 目的

中学校から高等学校への学校移行には、生徒にとってさまざまな適応上の課題がある。本研究は、高等学校への自律的な進学動機と高校生活における適応との関係を検討した。なお、自律的な進学動機は、Deci, E. L. & Ryan, R. M. の「自己決定理論」に基づいて作成された。

(2) 対象・方法

首都圏の公立の全日制高等学校(普通科)の生徒、ならびに一部公立中学校の生徒を対象にして質問紙を用いた調査研究が行われた。研究1は「自律的進学動機」尺度の作成、研究2は自律的進学動機と学校適応・不適応とに関する横断的研究、研究3は自律的進学動機と学校適応・不適応とに関する縦断的研究、研究4は自律的進学動機の個人差の研究、研究5は自律的進学動機の個人差と学校適応・不適応の研究、研究6は自律的進学動機と入学後の学業達成に関する研究、研究7は自律的進学動機と2年後の進路意識に関する研究、研究8は中学校における自律的進学動機の内在化要因の研究、などであった。

(3) 結果・考察

主な結果として、自律的な高校進学動機である「統合的・内的調整」が、入学後の高校生活における適応や学業達成・進路意識との積極的な関係を示し、他方外部統制的な進学動機である「外的・取り入れ調整」が入学後のそれらとは負の関係を示していることが見いだされた。また、中学校段階における「関係性」の欲求と「有能性」の欲求の充足が進学動機の自律性を高めることも示された。これらのことから、適応的な高校への学校移行を実現するためには、中学校時代に高校へ行くことの動機を自律的なものしていくことの重要性とその支援の仕方が明らかになったと言える。

審査の結果の要旨

高校生活の質を維持し高めるために、進学動機の自律性に着目したこと、またその進学動機を心理学の世界で定評のある Deci, E. L. の「自己決定理論」に基づいて構成したこと、さらに自律的進学動機の尺度を作成し、高校生活の適応・不適応、学業達成、進路意識などとの関係を横断的のみならず縦断的に研究を行ったこと、そしてその結果、「自律的な高校進学動機が高校生活における質の維持や向上にかかわること」などを実証的に明らかにしたことは、高く評価される。

よって、著者は博士（心理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。